

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 32

学校名・団体名	熊本市立中島小学校
HPアドレス	<a href="http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/naka-shimaes/index.htm">http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/naka-shimaes/index.htm</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	復興元年プロジェクト ～希望の花を咲かせよう in 中島～
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は、保護者と地域の皆様とのつながりが密接で、日頃から学校行事に対して多大な協力をいただいている。二度の大地震の際にも、子どもたちが通常の学校生活を送ることができるよう、様々な面から支援をいただいた。</p> <p>そこで、この「希望の花を咲かせよう in 中島」プロジェクトに取り組むことで保護者と地域の皆様に感謝の気持ちを伝える。</p> <p>また、校区自治協議会の皆様を巻き込み、児童、保護者、高齢者の三世代が一緒に活動することで、中島小校区全体に希望を与える。</p>	

本校児童は、保護者や地域住民の皆様から日々温かく見守られて過ごしており、以下の通り、学校行事や地域行事で児童と地域が密に交流している。

- ① 授業参観への保護者の参加率は毎回95%以上で、両親や祖父祖母の参加も多い。
- ② 保護者ボランティアによる「本の読み聞かせ」は、母親だけでなく父親による読み聞かせも行われている。
- ③ 運動会種目は児童だけでなく、保護者、隣接する知的しょうがい者支援施設（ゆたか学園）入所者の方々、老人会の方々と一緒にいる競技がある。
- ④ 知的しょうがい者支援施設の運動会に本校児童も参加し、全学年との交流を毎年年間約30回行っている。
- ⑤ 夏休み朝の町内ごとのラジオ体操は、老人会の方々と一緒にいる。
- ⑥ 登下校の交通安全指導や見守りが、老人会の方々によって定期的に行われている。
- ⑦ 地域にある保育園やこども園と低学年の交流を定期的に行っている。
- ⑧ 毎年、校区コミュニティセンターで行われている「福祉まつり」、「敬老を祝う会」や熊本港で行われている「みなと祭り」に、作文発表や歌の発表で参加している。

昨年4月の熊本地震で本校区も学校も甚大な被害を受けた。児童や保護者、地域住民が一日も早く元気を取り戻すためには、「地域の宝」である子どもたちが日常の生活を取り戻して学校生活を元気に送っている姿を見せることが一番大切であると考えた。

「ちゅうでん教育振興助成」をいただいて、元オリンピック選手を招いて陸上教室を開き、本校児童が出場する熊本市小体連陸上大会には老人会の皆様を招待した。

このような取組を行ったおかげで、地域住民の皆様にご元気を与えることができ、今まで以上に学校と地域との絆が深まり、地震でショックを受けていた児童の心のケアにもつながった。

そこで、今年度は昨年のような取組を継続するとともに、もう一歩前に進めるために、校区自治協議会の方々や協力しながら地域を巻き込み、児童、保護者、高齢者が一緒に活動することで、児童と中島校区全体に希望を与えようと考えた。

#### ○今年度活動の時期と内容

- 6～7月 ・ 全校児童で縦割り班編成 企画、提案活動実施にむけての条件整備
  - ・ 園芸資材や花苗等を購入し、全児童で「希望の花」栽培を開始
  - ・ 自治協議会役員会で協力依頼
- 8月 ・ 「校区港まつり」参加
- 9月 ・ 「敬老をお祝いする会」参加
- 10月 ・ 熊本市小体連陸上大会参加
- 11月 ・ 老人会との交流会
- 12月 ・ 地域ふれあいフェスタ（児童、保護者、地域）、もちつき大会（児童、保護者）参加
  - ・ 一人暮らし高齢者宅に「希望の花」と全校児童からの手紙プレゼント
- 3月 ・ 「校区福祉まつり」参加

※5月～3月 ・ 知的しょうがい者支援施設の皆様と各学年児童との交流

※6月～2月 ・ 保護者ボランティアによる読み聞かせ

（加えて、7月と9月に父親だけによる読み聞かせを実施）

#### ○成果

- ・ 保護者や地域の方と児童と一緒に活動する機会を増やしたことで、家庭・地域社会との連携強化を図ることができた。2学期末に行った学校評価アンケートでは、昨年度に比べて「学校は家庭に学校の教育方針や教育目標を判りやすく示していると思うか」が2ポイント、「先生方は保護者とよく連携をとって教育活動を進めていると思うか」が9ポイント上昇した。
- ・ 老人会との交流会や一人暮らし高齢者の皆様に「希望の花」を届けた際に、大変喜ばれる姿を目の当たりにしたり、後日お礼の電話や手紙をもらったりした児童はとても感激しており、「やって良かった。」という感想をもつことができた。

- ・学校評議員の方からも、次のように、本プロジェクトに対する好意的な意見が寄せられた。  
「一人暮らしの高齢者に花を届けたとき、涙を流して喜んでおられた。このような活動を続けてほしい。」  
「地域ぐるみの花いっぱい活動など、学校がとても生き生きとしている。学校が中心となって様々な取組が進められているのが分かる。」  
「ゆたか学園（知的しょうがい者支援施設）との交流による教育的効果は大きい。今後も続けてほしい。」
- ・自治協議会役員会の場で、「現在、地域行事推進役は高齢者が多く、つぎの世代を引き継ぐ人たちを育てる必要がある。」等のご意見を聞いた。そこで、本プロジェクトの一つとして、児童と保護者と高齢者が一同に集い、活動する場である「地域ふれあいフェスタ」を実施した。興味をもって喜んで参加する児童が多く見られ、地域の方も喜んでおられた。
- ・児童の活動で、保護者や地域に感謝の気持ちが伝わり、家庭やいろいろな場所で話題になった。このことは、児童の自己有用感、自己肯定感を高めることにつながった。
- ・下記のように、地元の新聞にも取り上げられたことで、保護者や地域の皆様にプロジェクトの目的や内容の周知につながり、とても効果的だった。

父親による読み聞かせ （熊本日日新聞）



一人暮らし高齢者へ希望の花と手紙プレゼント  
（熊本日日新聞）



一人暮らし高齢者へ  
希望の花と手紙  
プレゼント  
（熊本市政だよりの  
復興コーナー）